

# 令和7年度 岡山県立玉島商業高等学校 第2回学校運営協議会 議事録

日 時：令和7年11月18日（火）14:00～16:30  
場 所：会議室（管理棟2階）  
出席者：8人（11人中）

## I 開 会

会長挨拶：

過去の視察経験において、教員同士が授業改善について熱心に議論する「対話」の姿に感銘を受けたエピソードを紹介。その経験から対話の重要性を強調し、本日の協議会もまた、学校と地域が連携し、共に未来を創造するための有意義な対話の場としたいとの期待を表明した。

校長挨拶：

第1回協議会以降の学校の活況について報告した。体育の部や文化の部における生徒の活躍、昨年度を上回るオープンキャンパスおよび学校説明会への参加者数に触れ、地域からの関心の高まりに謝意を示した。特に、9年ぶりとなる野球部の秋季県大会準優勝、中国大会出場が、学校全体に大きな活力と一体感をもたらしたことを強調した。

両者の挨拶を受け、協議会は主要な議題である学校側からの報告事項へと移行した。

## 2 報告事項

学校運営の中核をなす学校経営計画の進捗状況と、創立100周年に向けた具体的な取り組みについて、学校側から詳細な報告が行われた。これらの報告は、データに基づいた現状分析と自己評価、そして生徒主体の活動を通じた未来への展望を示すものであり、後の意見交換における重要な基盤となつた。

### 2.1. 学校経営計画等の中間まとめ及び中間評価について

配布資料に基づき、学校経営計画の中間報告および自己評価について包括的な説明がなされた。

#### (1) 今年度学校経営計画の策定経緯：

- ・ 昨年度と同様の5つの重点目標（例：「志を持って率先して物事を実践できる人材を育成する学校」など）を継続していることが確認された。
- ・ 計画策定にあたり、昨年度に生徒・保護者・教職員を対象に実施した学校自己評価アンケートの結果を分析。特に評価が低下した「校内学習環境づくり」などの項目を課題として特定し、それらの改善を目的として、今年度の具体的な施策（8項目）に修正・追加を行ったプロセスが説明された。

#### (2) 具体的施策の中間評価結果：

- ・ 8つの具体的な施策に関する10月末時点での自己評価結果が報告された。特に評価A（達成度が高い）および評価C（課題あり）とされた項目について、以下の通り説明があった。

##### 【A評価の項目】

- ・キャリア教育の充実（2年生）：

　インターンシップ等を通じた自己理解の深化が着実に進んでいる。

- ・創立100周年に向けた意識統一：

　清掃時間中の応援歌放送や、生徒が主体となったマスコットキャラクター「タマクロー」の制作など、学校全体の一体感を醸成する取り組みが効果を上げている。

- ・ICT活用授業のデザイン：

　本校が県全体のICT活用に関する研修会会場となるなど、先進的な授業実践が外部からも高く評価されている。

##### 【C評価の項目】

・社会貢献活動への参加（1年生）：

1年生のボランティア活動への参加が伸び悩んでおり、今後の積極的な声かけと指導が課題である。

・環境美化の推進：

校内におけるゴミの問題など、学習環境の整備において改善の余地があり、引き続き指導に取り組む方針が示された。

(3) 広報活動の現状：

・YouTube、Facebook、Instagram 等の各種 SNS を活用した広報活動の成果が報告された。昨年度比で YouTube は再生回数が約 19 万回、登録者数が 284 名増加した。Facebook はフォロワー数が 23 名増加。特に若年層へのアプローチとして効果を上げている Instagram においては、フォロワー数が 631 名増加するなど、各プラットフォームで着実な成果を上げていることが示された。

(4) 創立 100 周年に向けた記念事業：

・事業の一環として、正門横に掲示板の設置が計画されており、その実現に向けた募金活動（目標額 250 万円）を開始することが報告された。

## 2.2. 創立 100 周年に向けた生徒の取り組みについて

第 1 回協議会での「生徒をより関与させるべき」との意見を受け、現在、生徒が主体となって進めている 100 周年に向けた取り組みが紹介された。

・記念写真撮影：

全校生徒と教職員が参加し、ドローンを用いて「99」の人文字を描き、記念撮影を実施した。

・応援歌合唱コンクール：

来年度、最高学年として 100 周年を迎える現 2 年生を対象に、応援歌の合唱コンクールを実施し、士気と一体感を高める機会とした。

・記念品開発（課題研究）：

3 年生の「課題研究」の授業において、生徒たちが 100 周年の記念品を企画・開発している。具体的な案として、制服を模したキーホルダー、地元企業と連携した抹茶チョコレート、オリジナルデザインのマグカップや包装紙などが挙げられた。

これらの多岐にわたる報告は、学校が自己評価に基づいて改善サイクルを回し、生徒と共に未来を築こうとしている姿勢を明確に示すものであった。この内容を受けて、協議会は活発な意見交換のフェーズへと進んだ。

## 3 協議事項：意見交換

報告事項を受け、授業見学の所感共有から始まり、本日の中心テーマである「社会人になるために必要な資質・能力」について、委員それぞれの知見に基づく自由闊達な意見交換が行われた。議論は、専門教育の在り方から、現代社会で求められる人間力といった本質的なテーマへと深まっていった。

### 3.1. 授業見学の感想

協議会メンバーから、授業見学に関する多角的な意見や所感が述べられた。

・授業形態と内容：

複数の教員が連携して指導するチームティーチング（TT）や、商業科と公民科の教員が協働する教科横断型の授業など、先進的な取り組みが高く評価された。これらの試みが、生徒の多角的な視点や深い学びを促進しているとの意見が挙がった。

・専門教育に関する考察：

簿記などの高度な専門知識を学ぶ授業に対し、実践的な職業能力育成に直結する商業高校の強みであると感心の声が上がった。一方で、早期の専門化が視野を狭める可能性も指摘され、特定の専門分野を深く追求する「スペシャリスト」としての能力と、幅広い視野を持つ「ジェネラリスト」としての素養のバランスをいかに育むかが重要であるとの本質的な問いがなされた。

・学習環境：

生徒たちが真摯な態度で授業に臨む姿は高く評価された。しかし、教室の通路に置かれた生徒の鞄が雑然としている点が指摘され、物理的な学習環境の整備も課題であるとの意見が出された。

### 3.2. 「社会人になるために必要な資質・能力」についての議論

本日の中心テーマについて、現代社会の動向を踏まえた深い議論が交わされた。

・思いやりと協調性の重要性

近年、新入社員の中には自己中心的な傾向が見られるとの懸念が示された。社会は個人の能力だけでなく、他者を思いやり、協力し合う姿勢によって成り立っていることから、知識や技術以前の基盤として、協調性を育むことの重要性が強調された。

・専門性と人間力の両立

高い専門能力を持っていても、組織内で孤立してしまう人材の例が挙げられた。専門知識を社会で真に活かすためには、その土台として、何が「正しい」のかを判断する倫理観や道徳観といった「人間力」が不可欠であるという深い洞察が示された。

・ストレス耐性と経験の価値

社会に出て困難な状況に直面した際に、それを乗り越える力、すなわちストレス耐性の必要性を強調した。そのためには、高校時代にあえて苦労や不便さを経験させることが、生徒の精神的な成長にとって極めて重要であるとの教育観を述べた。

・議論の総括と目指すべき生徒像

会長がこれまでの議論を、「自分と他者の関係性」「内なる強さ（くじけない力）」「他者への思いやり」といったキーワードで整理。「『さすが玉商の卒業生だ』と地域から言われる人材を育てることが、我々の伝統であり目標である」という、玉島商業高校が目指すべき生徒像を明確に示す、本質的な発言があり、議論は締めくくられた。

## 4 連絡事項

事務局より、今後の予定について以下の通り連絡があった。

(1) 次回開催予定：

- ・ 第3回学校運営協議会は、2月の中旬頃に開催する予定である。詳細な日程については、後日メールにて調整を行う。

(2) 次回以降の会議について：

- ・ 今回の議論を踏まえ、次回以降の意見交換の場には、テーマに応じて生徒や他の教職員が参加する可能性が示唆された。

(3) 次回議題：

- ・ 次回協議会では、年間を通した最終的な学校評価、本年度の学校自己評価アンケートの結果分析、および来年度の学校経営計画の骨子などが主要な議題となる予定である。

## 5. 閉会

最後に、佐藤校長が閉会の挨拶を述べた。委員から寄せられた貴重な意見に対し深い謝意を表明するとともに、「地域に愛される玉島商業」を目指し、100周年という節目を越えて、その先の未来へも伝統を繋いでいく決意を力強く語った。